

東嶺山だより

令和3年3月号 通刊158号

355-0044 東松山市正代778-3 電話 0493-34-3706(6555) FAX 0493-34-6555
email:semyojuji@yahoo.co.jp HP:tosaki.web.fc2.com/index.htm 携帯 090-2446-5209

心の内の鬼も自分の一部です やみくもに追い立てむやみに否定しても可哀想？

新型コロナの感染拡大が止まず、緊急事態宣言が延長される中、早1年の六分の一が過ぎましたが、皆さんは、2月3日の立春をどう迎えられましたか。

1年の暦・カレンダーは12月31日で終わり、1月1日より新年となりますが、自然界の暦は、2月3日前後の「立春」が、1年の初日となって、この前日に汚れを落とし清めて、立春を迎えられるようにしています。

ちなみに立春の日が2月3日＝節分が2月2日になるのは、明治30年(1897)2月2日以来124年ぶりのこと。常識だと思っていたものがあっさりズれることって、あるんですね。

そして、約37年前の1984年(昭和59年)は、逆に立春の日が2月5日で節分が2月4日だったようですが、みなさん覚えていますか？私は、全く記憶にありません。

桃から生まれた桃太郎やお椀に乗った一寸法師など昔話のヒーローは、みんな鬼を退治して出世しています。

赤や青の大きな体、角の生えた頭、するどい牙や爪、丸太のような金棒。鬼と言われて想像するこの姿は、仏教や道教の絵画に影響を受けて、平安時代後期にできあがったと言われていいます。

それ以前の鬼とはどのようなものだったのか。鬼の原型とされているものが人に見えない存在を表す「穉」(おん)、死に関連する表記としての「陰」(おん)、この2つが鬼の原型とされています。つまり、人知を超えた存在ではあるけれど、必ずしも悪いものとされていなかったわけです。

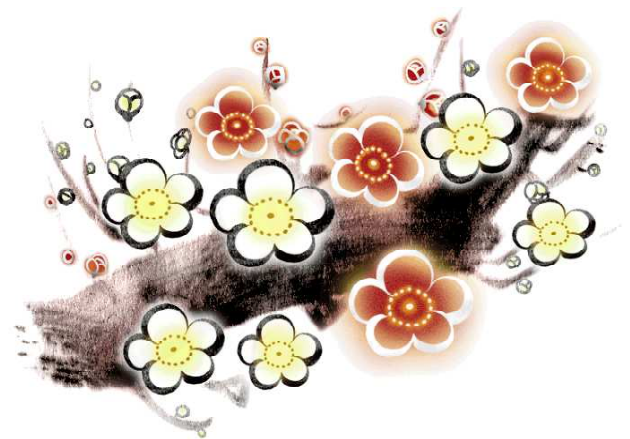
小さい子供の頃は、得体の知れない鬼というのは恐ろしい存在だったのは私だけではないでしょう。なぜ「鬼は外」なのか、外に追い出すというならば、一体彼らはどこからやってくるのかなどと。

大人に尋ねると、「鬼というのは、自分の中の心のことだ。いけないと分かっているのに、怠けたり、嘘をついたりして周りのせいにしてしまう、情けなくて弱い心のことだ」という答えが返ってきたりしました。

鬼は、心が作り出すものだ。かといって、人間、美しく強い心だけで暮らしていければ良いけれど、悲しいかな、これからも生きていく限り決して鬼が消えることはないかも知れません。

鬼も自分の一部、一方的にやみくもに追い立て、むやみに否定しても可哀想だし、意味がないかも知れません。

そこで、節分は過ぎましたが、改めて自分の心の内の鬼の言い分をじっくり聞いて見るのもいいかも知れません。その結果、鬼が少しでも改心すればしめたものです。



「今日彼岸、菩提の種をまく日かな」

お彼岸の1週間は人として幸せで理想的な日暮らしができるよう、自分自身をふりかえり学習する研修期間です。私たちは平生の暮らしに追われて、み仏の教えを聴聞し戒めを守る信仰生活の大切さを見失ってしまいがちです。大自然の恵みに感謝し、この地球上に祖先が受け継ぎ、両親を縁として頂戴し、生かされている尊い私の「いのち」。

お彼岸に先人達はなぜ、ぼたもち、おはぎ(現代では想像もできない貧しい時代に餅米、お米、砂糖、小豆を使った最高の食べ物でした)やだんごを作り、感謝の心を添えてお仏壇にお供えし、墓参りをされたのか。その光景に思いを馳せ、私自身の「いのち」のあり方を見つめ直す大切な精神衛生週間がお彼岸です。

仏の心の一粒の種を発芽させ成長する姿を、子供や孫達に託し、ともに育てることがご先祖様への真心のご供養となります。具体的な修養徳目は次の「六波羅蜜(ろくはらみつ)」です。

- 「布施(ふせ)」 財物ばかりが布施ではありません。～「施そう、物も心も」～
- 「持戒(じがい)」 行いを正しましょう。～「保とう、仏の規律」～
- 「忍辱(にんにく)」 怒りやすい心を治めましょう。～「耐えよう、どんなことにも」～
- 「精進(しょうじん)」 怠りの心をなくしましょう。～「努めよう、あらゆることに」
- 「禅定(ぜんじょう)」 散りやすい心を静めましょう。～「落ち着こう、心しずかに」
- 「智慧(ちえ)」 愚かな暗い心を明らかにしましょう。～「目覚めよう、仏の道に」



この六つのうちひとつでも行うことによってこちらの岸から彼岸に渡ることができるかとされています。

「布施」を行えば、おのずと持戒、忍辱、精進、禅定、智慧もついてきます。

みんなで善い種まきをして明るい日常生活を続けましょう。

■彼岸塔婆受付 「彼岸会」 20日:10時

仏典にも「塔を建てて供養すべし」とあるように、塔婆供養は故人への最高の感謝の証です。仏教の修養期間である彼岸の良き日に、この善行を積まれることを、ぜひおすすめします。

塔は、天と地を結び、供養の心は故人に届くのです。しかも、その功德は供養した人にも回向される、というありがたい行事です。

「…家先祖代々精霊」又は「…(戒名)霊位」で、電話又はFAXで込みを 一塔 5000円

■東日本大震災追悼法要 3月11日(木) 2時46分

時は早いもので、東日本大震災からまもなく10年がたちます。

そこで、当山では、昨年同様、被災から11年目に当たる3月11日に合わせ、

- ①被災地の追悼並びに被災各地の早期復興を祈願するため、地震発生時刻の午後2時46分に鐘を撞きます。
- ②追悼慰霊法要を修行します。



■3月の予定

- 寺子屋 13, 27日
- 東日本大震災追悼法要 11日; 14時46分
- 彼岸会 20日; 10時
- 坐禅会・写経会 14, 28日 坐禅: 7時 写経: 8時
- 護持会役員会(監査会も開催) 28日; 2時30分